

# 灯油・電気代沸騰の今、冬の暖房どうする？

## あなたは石油ストーブ派？、それともエアコン派？

きらきら発電の会員さまより「石油ストーブをエアコンに替えたいけど、どう思う？」という問い合わせがあり、咄嗟に「エアコンは夏冷房に仕えるからいいですよ」と答えた。すると「電気代や灯油代が今後どうなるか、地球温暖化対策に逆行しないか、考えちゃうのよ」との返事。そこで「石油ストーブとエアコン、どちらがいいか？」徹底分析してみたい。(文責=広幡)

## 石油も電気も炭素排出するから地球温暖化対策上はどちらもNG！

脱炭素社会を考えた時は、石油も電気も炭素を排出するから、どちらもNG。でも「どっち？」と迫られたら、広幡は「石油派」。電気を作る時化石燃料を燃やして発電し、5割近くのエネルギーが熱として無駄に捨てられる(その分地球を暖める)。そうやって出来た電気を使って暖房を取るのにはエネルギーの正しい使い方ではないのでは、そう考えてしまうから。

## 地球温暖化を考えるなら、まずは窓ガラスの断熱化を

今のままの家に住んで「暖房どうする？」では地球温暖化対策にはならない。地球温暖化を本当に心配なさるなら、「暖房器具をどうするか？」の前に、断熱窓ガラスの採用を考えてほしい。住宅の断熱化こそ、消費するエネルギーを減らす対策の柱なのだから。

## 石油代と電気代、どちらが高くつく？

石油代と電気代、どちらが高くつく？、これは難しい問題だ。住宅の気密性がどうなっているかによっても変わってくるだろう。それにウクライナに平和が訪れない限り、石油代は落ち着かない。電気代の方は当面石油代の値上がりによって引上げられて高止まりするだろうが、長期的に考えれば自然エネルギーの拡大で電気代は下がるだろうし、電気の方が地球温暖化対策上有利になる。でも来年・再来年の話ではない。

## 災害対策上の視点も忘れずに！

生活上のエネルギー(電気・ガス・灯油など)を考える時、東日本大震災クラスの災害の到来を忘れてはいけない。宮城県沖地震を体験した広幡家の家訓、それは生活用のエネルギーを一つにしないこと。「オール電化」などとエネルギーロスを進める東北電力を尻目に、広幡家は「電気・ガス・灯油」を平等に扱ってきた。しかも災害対策用の乾電池式石油ストーブを今でも一台確保している。それに炭まで利用し、炭の灰を「わらびのあく抜き」に利用している。実は広幡家では石油ストーブもエアコンもどちらも利用している。「どちらか？」という視点ではなく、「それぞれの良さを利用する」ことが大切なのでは？。だから結論は「石油ストーブ」をそのまま使える状態のままにして、エアコンを導入する。これだ。

北日本大震災(北海道・千島沖地震)が東日本大震災規模で近々発生すると予想されている。両方あったほうがいいのか？。でもどちらも電気がなければ動かない、？……か。我が家では東日本大震災の時太陽光発電の災害用コンセントを利用してお風呂を沸かした。太陽光発電設置の家では一つの備えがあると経験上思う。

# くりの木保育園屋上に太陽光

## (株)エコスタイルが8月に無償で設置

みやぎ地域市民電力連絡会は社会福祉法人宮城厚生福祉会と共同で、(株)エコスタイルが実施する自家消費太陽光無償設置プログラムに応募・採択され、福祉会が経営する古川くりの木保育園屋上に、8月 7.7 kWの自家消費太陽光設備を設置することができました。同社は「子供たちの未来にエコ電力」を社是としています。太陽光の運転開始(東北電力との関係)は9月13日の予定です。なお設置経過の詳細については、10月号で開所式の様子とあわせて紹介させていただきます。



# 映画 Wende 光と水のエネルギー

## 近畿で自然エネルギーに取り組む方々を取材

### みやぎ地域市民電力連絡会が10月15～16日オンライン上映

みやぎ地域市民電力連絡会は、10月15日(土)～16日(日)、近畿で自然エネルギーに取り組まれている方々を紹介するドキュメンタリー映画「Wende—光と水のエネルギー」のオンライン上映会を開催します。視聴は無料です。申し込みはQRコード、または([h-mitobe@wa2.so-net.ne.jp](mailto:h-mitobe@wa2.so-net.ne.jp))のメールアドレスに申し込みください。申し込み締め切りは10月9日です。タイトルの「Wende」はドイツ語で「転換」を意味しますが、東西ドイツ統一のような「革命的な大転換」の意味も含まれます。



## 輸入バイオマス発電に関する学習講演&シンポジウム

バイオマス発電の動画 <https://www.youtube.com/watch?v=3zsA48bGmUQ>

「仙台港の石炭火力発電所建設問題を考える会」主催で、8月21日輸入バイオマス発電に関する学習講演&シンポジウムがありました。記念講演は泊みゆき氏。泊氏は「FIT認定では8割が輸入バイオマス。材料はPKS(油やしの皮)・パーム油・木材ペレットなどで、パーム油はか所もまだ稼働していない。今後も稼働できないだろう。今後増えるのが木材ペレット。だがバイオマス発電は原材料が高く付くためFITの20年間しか稼働できない上、カナダや米国など原産地で広範囲な森林伐採による環境破壊が進行している。要するに地球温暖化を阻止できる発電所ではない」と、解説されました。石巻市須江地区のG-Bio発電所や仙台港レノバ社の杜の都バイオマス発電所の建設反対運動も紹介されました。なおバイオマス発電の動画「バイオマスはカーボンニュートラル?」がユーチューブで公開されています。上記サイトです。

きらきら発電市民共同発電所ニュース

2022年9月号 第93号

〒981-3215 仙台市泉区北中山3丁目17-12

電話 070(2010)3777

HP [kirakirahatuden.com/](http://kirakirahatuden.com/)

Eメール [hirohata3777@outlook.jp](mailto:hirohata3777@outlook.jp)